



第8期会長に就任するにあたって

第8期廃棄物学会会長 田中 信壽
(北海道大学 教授)

廃棄物学会は創立以来 14 年目を迎える。拡大成長し続ける稀な学会であると言われてきたが、会員数に頭打ちの傾向が見られる。しかし、市民、国・地方の行政・研究所、大学、民間企業、公益団体において、また学問分野も文系から理系まで幅広い領域で、廃棄物に関する研究が集約されている特徴ある学会として、学会誌や研究発表会などの充実振りは高く評価されていると自負している。

学会は、昔で言えば成人を迎えるときで、今伸び盛りである。一方、大幅な環境負荷削減・省資源を目指す、持続可能な社会作りが目指されている。下流での廃棄物処理に奮闘してきた時代から、社会全体で廃棄物問題に取り組もうとする時代に移行しようとしている。いまこそ、生産流通に携わる人々を学会に迎えて、よく議論し、言うべきことを言わなければならない時期になっている。また、急展開の難しい廃棄物行政の舵取りに有効な助言を行うことが求められている。

そのためには、学会の今後の方向を具体的な中長期目標(学会マニフェスト)として明確にし、努力していく必要がある。これまでの実績を前進させながらも、思い切った方向転換も考えたい。第8期が学会のターニングポイントであったと言われたい。

第7期高月会長が掲げられた課題も含めて、次のように取り組む決意である。

1. 中長期目標(学会マニフェスト)の作成・議論

学会の進むべき方向を明らかにし、委員会の機能・役割分担・再編成を含めて、会員へのサービス、社会への貢献などを目標に検討し、中長期目標を作る。

2. 会員の増強

賛助会員候補会社リストは既に作成されているので、「賛助会員が求める学会とは何か」、「学会活動はそれに応えているか」を検討しつつ、具体的に行動する。前期で検討したリストに加えて、地域で廃棄

物処理・リサイクル事業を行っている企業に加入を呼びかける。さらに、学会は正会員が基本であるので、一層の加入を呼びかけ、新制度の市民会員についても、支部の協力を得て加入を呼びかける。

3. 支部活動の強化

関東を除く全ての地域で支部ができた。今期は、支部活動を強化するために、理事のいない・少ない支部から、理事会推薦理事を選出した。廃棄物リサイクル・適正処分は地域ごとに地域が責任を持って遂行する。廃棄物学会が活躍できる最大の基盤が地域にあることを考え、具体的な活動を今後支部にお願いしていく。

4. アジアにおける国際協力活動の推進

国際委員会と戦略会議を中心に、アジアにおける研究組織作り、シンポジウムの開催、ジャーナルの発行などに取り組む。学会英文誌の発展、将来像を考える。

5. 法人化に向けて

届出法人化制度の発足と共に、届出を行うという方針を前期理事会で確認した。学会全体で了解を得る。

6. 知識普及活動・出版事業の推進

廃棄物リサイクル・適正処分に関する科学的知識の普及に寄与する。そのために出版活動や新しい、より実務的な講習会の開催なども具体化する。

7. 短期的に取り組む課題

求められる学会活動と財政の関係を整理すること、表彰制度を確実に実施し、有効なものとするための改善、及び学会こそ行える表彰制度の創設、理事選挙制度・会長選挙制度に関する検討、特に今期の選挙から行っている、自ら立候補して行う理事選挙への改善

などに取り組む。

以上

新副会長就任挨拶



第8期廃棄物学会副会長
澤地 實
(大阪市環境事業局 施設部長)

今期も引き続き副会長、年会委員長を務めさせていただきます。

今年の研究発表会は地元の要請もあり、従来と多少趣を変え、四国の高松で開催致します。プロジェクターの活用など発表方法の工夫、小集会やシンポジウム等の企画の充実、さらには豊島や直島への見学会も用意しており、会員の皆様多数の参加をお待ちしております。

さて今期は田中新会長の下で、学会はこれまで築き上げてきた活動実績を礎に、諸々の課題を整理し未来を見

据えた新たな取組みを進めます。一方、廃棄物問題も廃棄物の問題から上流側も含めた循環型社会形成や資源や地球環境問題へと広がり、また世間的に関心が示される問題も多々あります。このような課題を廃棄物サイドから全面的にフォローする当学会の果たすべき役割はますます重要になっており、従来からの研究や開発成果の交流といった活動に加え、中心軸をきっちり見据えて問題を捉え、見解をまとめ、学会としての見識を示す力量が求められているところです。

こういった状況への対応も今期の課題の一つと考えており、我々役員が前面に立って様々な課題に取り組むのは当然ですが、会員活動あつての学会であり、会員の皆様方の積極的な参加、関わりによって廃棄物問題への取組みが充実し、学会が発展することを節に願う次第です。



第8期廃棄物学会副会長
藤本 忠生
(株)クボタ 社友)

第7期に引き続き副会長を仰せつかりました。よろしくお願い致します。

さて、廃棄物学会は、設立以来、多くの方々のご努力により、今日の立派な組織になりました。私は、次の世代に引き継ぐコマの一員として、最大の努力をしたいと思います。

どのような組織でも一昔半も過ぎますと、活動内容の客観的な評価が必要となります。謙虚に設立の時を振り返り、今の世の中を考察し、活動を見直すことが求められます。

廃棄物学会は、会員の構成は多種で、それだけ活動の基本的な事項の意見も多くあります。組織の連続と発展を考えますと、奇麗事は兎も角、財政の基礎の確立は重要です。この学会も、このままでは財政状況は大変悪くなります。「建て直しは、極端に落ち込むまで待たないと協力は求められない」との意見もありますが、皆さんと一緒に何とかしたいと思います。財政の確立は、それは単独のテーマではなく、学会運営の基本線にも関連します。ご支援をお願い致します。



第8期廃棄物学会副会長
山本 和夫
(東京大学 教授)

今期、副会長を務めることとなりました。学会全体のことにもっと汗をかきなさいという田中信壽会長の叱咤激励と受け止め、副会長として会長を補佐して参ります。理事選挙立候補の折の所信のとおり、編集委員会委員長を引き続き務め、学会誌・論文誌、英文誌、C & Gの調和ある発展を目指していきます。

右肩上がりの成長を遂げてきた廃棄物学会は、現在転機を迎えていることは確かであり、まさに持続的発展が求

められていると思います。高齢化社会を反映した学会員の年齢構成は、端的に、将来世代を育てなければいけないことを物語っています。そのためには、会長が提唱する中長期目標(学会マニフェスト)をしっかり定め、将来像を具体的に描く必要があるでしょう。右肩上がりの時代の慣性を絶つという意味でも、新しいことにチャレンジしていかなければならないでしょう。しかし、いいものは頑固に残さなければなりません。

惑いながらも天命を知るべき歳を迎え、一所懸命会長を補佐し、学会の持続的発展のために微力を尽くす所存です。諸先輩方のこれまでの足跡や学会への貢献が大きいだけに、微力としか言えませんが、それでも力にはなれるでしょう。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

平成16年5月27日

同時開催：平成15年度廃棄物学会賞表彰式

平成16年度研究討論会を終えて

電気製品内有害物質の管理と適正リサイクル、
ごみ処理事業経営の日独比較～効率性改善と費用負担
のあり方を中心に～と多様であった。 が研究委員
会、 が年会委員会、 が会員によって企画された。
2日間の有料参加者数は235名であり、過去4回の参加者
数と較べると減少してしまった。しかし、参加者の立場から
はさまざまなテーマを通して聞くことができ、大変有意義で

(年会委員会幹事 松藤敏彦 記)



▲ 討論会の様子

韓国廃棄物学会参加報告

(国際委員会 鈴木明郎 記)

「プラスチック類リサイクル技術の現状」開催報告

平成16年6月3日(木)、川崎市の臨海部、エコタウン地域において稼働しているプラスチック類リサイクル施設において、技術セミナー「プラスチック類リサイクル技術の現状」が30名の参加を得て、開催された。

プラスチック類のリサイクルについては、ごみ発電やRDFなど主としてサマールリサイクルが行われてきたが、近年、容器包装リサイクル法の制定などにより、一般廃棄物系の廃プラスチックを中心にケミカルリサイクルやマテリアルリサイクルの技術開発が進んでいる。そこで、今回のセミナーでは、プラスチック類リサイクルの現状と今後の方向性などについて施設見学を交えながら意見交換を行った。

はじめに昭和電工(株)の「廃プラスチックアンモニア原料化施設」を訪問し、同社の基幹事業であるアンモニア製造に廃プラスチックを取り入れた経緯なども含め、前処理施設やガス化溶融施設などの施設見学を行いながら、その特徴や技術について説明をいただき意見交換を行った。次にペトリバース(株)の「ペット to ペトリリサイクル施設」を訪問し、同社の独自技術であるアイエス法によるペットボトルリサイクル技術の概要について説明をいただき意見交換を行った。

どちらの施設においても技術面に加え、原材料の確保や採算性など事業の運営面にまで質問や意見が及び、予定の時間を超える活発な意見交換が行われ、大変活気あるセミナーとなり、有意義な1日となった。

(企画委員会 大澤太郎 記)



▲施設見学の様子

「有機性廃棄物のリサイクルを考える」開催報告

平成16年4月28日、東北支部主催のシンポジウム「有機性廃棄物のリサイクルを考える」が、循環型社会対応産業クラスター委員会、日本生物工学会北日本支部、東北地域バイオインダストリー振興会議、仙台市、宮城県の共催、東北経済産業局の後援により、仙台市シルバーセンターにて開催された。

溝口忠昭支部長(東北大院・工)の挨拶の後、西野徳三教授(東北大院・工)による講演「有機性廃棄物のリサイクルにおける微生物の役割」があり、有機性廃棄物の堆肥化における微生物のはたらきとその重要性、生産物の利用について、最新の研究成果も交えて講演いただいた。続いて有機性廃棄物のリサイクルにおける自治体や企業の取り組みについて3件の事例報告があった。「わける君」で有名になった仙台市や「レインボープラン」の名で全国的に名高い長井市の取り組みについて報告がなされた後、東北エネルギーサービス(株)により「木質バイオマス発電所の建設」に関する講演がなされた。続いて牛久保明邦教授(東京農大)により「有機性廃棄物のリサイクルとその課題 - 食品廃棄物を中心として - 」というテーマで講演がなされた。食品廃棄物のリサイクルの考え方や現

状と課題について、歯切れのよい語り口で分かりやすく講演していただいた。最後に東北経済産業局環境資源部の昆正治部長から、シンポジウムが極めて意義深いものであったことへの謝辞が述べられ、閉会となった。本シンポジウムは、昨年発足した当支部の主催による2回目のシンポジウムであり、会場の定員を大幅に上回る参加者により活発な討論が行われ、非常に盛会なものとなった。

(東北支部 中山 亨 記)



▲講演者と支部関係者

平成16年3月19日

「第1回廃棄物に関する法制度セミナー」開催報告

関西支部の第 1 回廃棄物に関する法制度セミナーが、「めまぐるしく変わる法制度に対応していくために」を副題として、平成 16 年 3 月 19 日に開催された。

本セミナーは、近年急速に整備が進む廃棄物・リサイクルに関する法律に関して、これまでの考え方を整理、おさらいし、理解を深めることを目的としたもので、当日は 149 名もの参加があった。

はじめに、環境省・廃棄物リサイクル対策部・廃棄物対策課の由田秀人課長から、廃棄物処理法成立以来 30 年余のこれまでの廃棄物・リサイクルに関する法律の制定・改正を、関連環境法令を含めて、その根拠を交えながらご説明いただくとともに、現在および今後の法整備の方向性などについても、2 時間の長きにわたりお話いただいた。

続いて、自治体における廃棄物処理法の運用に関して和歌山県循環型社会推進課の岩井敏明課長から、和歌山県橋本市の産業廃棄物問題を例に、この事件を通じて県は、どのように廃掃法や県条例を運用して現状に至ったかを、写真等を用いてわかりやすくご説明いただいた。

最後の質疑応答では、今後の廃棄物処理法の動向などに関して、質問が活発になされ、本セミナーは盛会裡に終了した。

このセミナーは関西支部の行事として、今後、第2回、第3回と続ける予定にしており、これからも多くの方々にご参加頂きたくよろしくお願い致します。

(関西支部 大下和徹 記)



▲ セミナーの様子

関西支部 市民と学生のためのセミナー

平成16年6月12日

「ごみと教育」開催報告

平成16年6月12日(土)、「ごみと教育」をテーマに“市民と学生のためのセミナー”を大阪府立女性総合センター(ドーンセンター)で開催し、84名の参加があった。

まず、地域環境デザイン研究所 ecotone 代表の太田航平さんに、「地域のごみ教育・京都からの発信・お祭りと環境のいい関係」と題して、お祭りからリユースを広げようとする全国のような取り組みや、お祭りにおけるリターナブル容器導入への挑戦などについてお話いただいた。リターナブル容器や洗浄器搭載車などを開発されているが、それらの貸し出し制度を通じて全国各地のお祭りにリユース活動を広げ、お祭りの主催者や参加者の意識を高めていきたいと話された。

次に、環境学習の教材の企画、編集等に携わり、市民としても様々な活動に取り組んで来られた、株式会社教材研究所の水口保さんに、「ごみと教育」と題して、修学旅行や総合学習でどのようにごみや環境について学ぶことができるのかを講演していただいた。

学校における環境教育をより一層進めていくためには、市民の方々の学校活動への参加が不可欠であり、実体

験をベースとした総合学習を継続して続けていくことが重要であると話された。

最後の質疑応答では、市民の方々の実体験に基づいた活発な質問がなされるとともに、環境市民団体の自己紹介等もあり、予定時間を 30 分以上オーバーするほどに、セミナーは盛会裏に終了した。次回も多く市民の方や学生の皆様に参加頂きたい思います。

(関西支部 大下和徹 記)



▲ 市民と学生のためのセミナーの様子

平成16年度総会および講演会 開催報告

平成16年度廃棄物学会九州支部総会が平成16年6月5日(土)、福岡市城南市民センターにおいて、参加者数111名(委任状63名含む)で開催された。

総会では、まず花嶋正孝支部長(福岡県リサイクル総合研究センター)から「未だ廃棄物の分野では難しい問題が山積していますが、学会が中心となって解決へ向けて取り組みましよう」との挨拶の後、議長に松藤康司副支部長(福岡大学)を選出し、平成15年度の事業報告と収支報告、平成16年度の事業計画や収支予算案等の議事が進行された。平成16年度の九州支部で予定している主な取り組みとして、昨年度同様、講演会、市民フォーラム、研究シンポジウムの3大イベントの実施及びホームページの充実、ニュースレターの発行などが報告された。

また、理事・監事の改選に伴い、新しい支部長に楠田哲也副支部長(九州大学大学院)が就任した。楠田哲也新支部長の就任挨拶では、「廃棄物問題の解決のためには、ハードウェア、ソフトウェア、ハートウェア技術の展開の必要性、30代の若手研究者育成が重要であり、そのために支部長として学会組織に貢献していきたい」との決意を述べられた。

総会に引き続き行われた講演会では、講師に岡本久人氏(九州国際大学次世代システム研究所長)を迎え、「ストック型社会への転換の必要性と考え方」と題してご講演頂いた。ECO-ECOモデルをはじめとして、ストック型社会を目指すうえで、「どのような考え方や視点を持つべきか?」ということ、随所にユーモアを交えてお話し頂いた。

その後、福岡大学文系センターで行われた懇親会も例年通りの盛会でありました。(九州支部 岡重男 記)



▲ 総会の様子

【お知らせ】

第3回アジア・太平洋埋立国際会議(APLAS)北九州 2004

2000年の福岡会議で始まったAPLASはソウル会議を経て今年再び日本での開催となります。

急速に経済発展を遂げているアジア・太平洋地域における深刻な廃棄物問題が顕在化する中で、地域全体の環境保全と持続可能な開発の実現を目指して本会議を開催します。

3回目の今年は北九州市を会場に、約20カ国・250人の廃棄物の埋立及び再資源化分野の専門家が集い、廃棄物の埋立に関する様々な技術システムや海外での廃棄物処理の現状等について、約140編の研究発表及び意見交換を行います。研究発表と質疑応答では、日本語と英語の同時通訳が行われます。また、約30の企業展示ブースが開設され、北九州市エコタウン実証研究エリア等への施設見学会も行われますので、皆様のご参加をお願いいたします。

日時:平成16年10月27日(水)～29日(金)

会場:北九州国際会議場 他

主催:北九州市・廃棄物学会・NPO法人最終処分場技術システム(LS)研究協会

参加費:一般 55,000円 学生 25,000円

会議参加には事前登録をお願いします。

申込み用紙(参加登録書)はAPLASホームページから入手してください。

* 申込み・問合せ先:APLAS事務局(担当:大庭・吉田)

北九州市環境局環境産業政策室内

TEL:093-582-2630 FAX:093-582-2196

HP <http://www.aplas.jp> e-mail aplas@bz01.plala.or.jp

Symposium Session Topics

. Scientific Paper

- Landfill Concept and Planning
- Landfill Design/Construction
- Landfill Operation
- Landfill Gas and Leachate Management
- Special Waste Landfill
- Post-management/Restoration/Remediation of Landfills
- Other Landfill Issues

. Country Report

Waste Management Landfilling in Developing Countries/Areas
(詳細なプログラムは、近日中に発表されますので、APLASホームページをご覧ください。)

【お知らせ】

北海道大学大学院工学研究科 バイオリサイクル工学
(クボタ)講座/廃棄物管理工学分野 主催

第1回 バイオリサイクル工学シンポジウム 「廃棄物系バイオマス変換技術の展望」

—化石資源依存型社会から生物資源循環型社会へ—

開催日時:平成16年7月23日(金)14:00~17:00

開催場所:北海道大学 クラーク会館講堂

参加費:無料

問合せ先:011-706-7581

第一部:基調講演

1.「循環型社会形成のための嫌気性処理技術の役割」

東北大学大学院工学研究科 教授 野池達也

2.「エネルギー地産自立型社会に向けてのバイオガス利用水

素燃焼電池技術の展開」北海道大学 教授 市川 勝

第二部:講座の活動報告と総合討論

詳細は、バイオリサイクル工学(クボタ)講座の
HP(<http://kanri-er.eng.hokudai.ac.jp/biocyc/index.htm>)をご覧ください。

廃棄物学会後援

医療廃棄物研究会第23回研究講演会

開催日時:平成16年7月24日(土)9:30~

開催場所:東京慈恵会医科大学 中央講堂

参加費:会員5,000円、非会員10,000円、学生1,000円

定員:70名

申込方法:FAX またはメール(参加費は当日に支払い)

問合せ・申込先:医療廃棄物研究会事務局 担当:仁田

TEL:03-6403-5870、FAX:03-6403-5871

E-mail: iken@tiara.ocn.ne.jp

午前の部「医療廃棄物問題と製造メーカーの取組」

午後の部「感染性廃棄物処理マニュアル改正のポイント」

詳細はHP(<http://www.jmwra.jp>)をご覧ください。

廃棄物学会後援

第5回日韓廃棄物シンポジウム

開催日時:平成16年8月26日(木)~27日(金)

開催場所:大阪府立大学 学術交流会館

参加費:シンポジウム6,000円、懇親会4,000円、

施設見学会5,000円

定員:シンポジウム150名、懇親会50名、施設見学会80名

申込締切:平成16年8月20日(定員になり次第締切)

問合せ・申込先:(財)関西環境管理技術センター

日韓廃棄物シンポジウム事務局 担当:安田 中西 田部

TEL:06-6583-3262、FAX:06-6583-3274

新刊紹介

ごみ問題とライフスタイル こんな暮らしは続かない

シリーズ地球と人間の環境を考える8

高月 紘 著

発行所:日本評論社(TEL:03-3987-8621)

定価:1,600円(税別)

まんがで学ぶエコロジー

本当に「地球にやさしい社会」をつくるために

文:内藤正明 絵:高月 紘 執筆協力:鈴木靖文

発行所:株昭和堂(TEL:075-706-8818)

定価:2,000円(税別)

事務局だより

梅雨の真っ只中、一年で最も憂鬱な時期ですが、植物には恵みの雨で、きたるべき夏や果実をつける秋に備えてすくすくと育っています。まさに循環ではプラスに向かうための貴重な時期です。

学会ニュースは、学会設立時から事務局会議のメンバーで作成され、会員の皆様に年6回発行してまいりました。事務局会議の仕事は事務局運営を側面からサポートし、その一部として学会ニュースも作成することでした。しかし、ここ数年事務局も充実し特にサポートする必要性が薄れ、ほぼ学会ニュースの発行に専念して参りました。一方では、学会活動を外部に公表し、学会の社会的な必要性をアピールすることの重要性が総務委員会で認識され、広報活動を充実する必要性が高まって参りました。そこで、事務局会議を発展的に解散し、新年度から新たに総務委員会の下に広報委員会を設け、学会ニュースの作成、ホームページの充実等の広報活動を行っていくことと致しました。

今後、会員の皆様には従来にも増してタイムリーな情報提供をさせて頂くとともに、外部への積極的なアピールも行って参りますので、宜しくお願い致します。

(K.K)

次号(学会ニュースNo.82)は9月1日発行予定です。

会員状況

H16.5.31現在
()内は、H16.4.1以降の増減

正会員	
学生会員	
外国人会員(DM)	
登録団体市民会員	
公益会員	
賛助会員	
計	

注)外国人会員(DM)は、廃棄物学会外国人等会員規程第4条に定める会員を示す。

廃棄物学会ニュース No.81 平成16年7月1日発行

廃棄物学会 〒108-0014 東京都港区芝5-1-9 豊前ビル5F

Tel.03-3769-5099 Fax.03-3769-1492

<http://www.jswnet.gr.jp>

古紙配合率100%再生紙を使用しています

2100